

静岡銀行の融資拡大戦略

格付は邦銀最高水準、株価も地銀トップクラスを誇る超健全銀行。その静岡銀行が、本業部分の利益である経常収益・業務粗利の数年来の減少傾向を反転させるべく、昨年下半年から中小企業・個人向け融資拡大へ向けて戦略転換を図った。早くも現われ始めたその成果に松浦頭取ら同行経営陣は自信を深めている。

審査態勢の改革で

中小・個人重視へ戦略転換

インタビュー

静岡銀行 頭取 松浦 康男

近隣の有力地銀二行と比べると、一〇年ほど前は当行のほうが貸出金利ザヤは大きかった。ところがその後は、当行の金利は下がり続ける半面、ほかの二行はどんどん上昇して、〇三年度の中間期では非常に大きな差があった。大企業貸出のウエートが高いからだ。そこで、昨年一〇月に支店長の決裁権限を大幅に拡大するなどの審査改革を実施したり新商品を開発するなどして中小企業や個人向け融資を重視する戦略転換を図った。



今後に期待できる決算

金融界の〇四年三中期決算はマクロ経済、とくに株価の好転もあっておしなべて好決算となったが、自行の決算に対する評価を伺いたい

おおむね計画どおり着地はしたと思うが、経常利益や当期純利益は大幅な改善になっている。これは当行だけではないが経済環境の好転、とくに株式市場が回復した影響が大きい。当行では〇四年三中期に厚生年金

の将来分の代行返上益三六億円の特殊要因もあったが、一八〇億円近くが株価の上昇による損益改善だ。不良債権処理額が約一九億円減っているの、この合計で経常利益、当期利益とも倍増した。しかし、業純は増え

ているけれども、いわゆるトップラインは、経常収益や粗利が減っていてここが当期利益からみると貧弱で必ずしも満足しているわけではないところがある。業務粗利、経常収益の減少にまだ歯止めがかかっていな